

IEC/TC100ベルリン会議の報告

IEC/TC100の概要

IEC/TC100は、オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器の技術分野に関連する国際標準化を行っており、民生用分野・業務用分野の機器の性能、測定方法及びマルチメディアシステムの応用、システムと機器間のインターオペラビリティなどの規格化を推進しています。

国内委員会は、当協会が運営しており、国内委員会の委員長は、安田浩教授（東京大学）が務めています。

TC100は、9つのTA（Technical Area）、TC直轄のPT（Project Team）、AGS（戦略諮問会議）、AGM（運営諮問会議）及び規格の保守を担当するGMT（General Maintenance Team）から構成されています。

TC100は、他のTCにおけるSC（Sub committee）と同じレベルに相当する組織であるTAから成り、迅速かつ柔軟に対応できる組織運営を行い、各分野に対して業界共通のインフラ作りに取り組んでいます。当分野での主力開発は日本が中心となっているため、必然的に技術力のある日本が、各TAの役員、PL（Project Leader）を数多く引き受けており、日本からの規格化提案は、全体の50%以上を占めています。幹事国は、日本が引き受けており、名実ともに中心的な役割を果たしています。

ベルリン会議の概要

今回の年次会議は、9月26日から29日にドイツのベルリンで、IEC創立100周年記念大会に併設して開催されました。AGM、AGS、GMT、各TA・各PT会議、総会が行われ、全会議を通して14カ国から延べ約360名が参加しました。

■ AGS（戦略諮問会議）

AGSは、長期的かつ戦略的な新規の規格化提案を諮問する役割を担っている組織です。日本が議長を務めており、メンバは各地域（欧州、米国、アジア）の代表から構成されています。

IEC PACT（未来技術諮問委員会）への対応として、Smart homeの戦略方針が提示され、新TAであるTA9

の課題として取り組んでいくことが確認されました。また、Multimedia Qualityという分野の新たな取組みを開始することになり、関連用語の定義と参照モデルを明確化することを確認したほか、マルチチャンネルオーディオに関する新規提案の準備を進めることとなりました。新しい取組みとして注目されます。

■ AGM（運営諮問会議）

AGMは、TC100という広い分野を効率的に運営するため、運営上の諸課題について議論する役割を担っており、TC100の議長及び幹事、各TA等の役員から構成されています。

今回は、リエゾン関係でISO/IEC JTC1議長のScott Jameson氏が出席し、JTC1の活動の紹介やTC100との協業提案を行いました。協業については、幹事同士で調整していくこととなりました。この他、SPS（戦略方針計画書）、TC100 Proceduresの改訂内容の確認や、新しいプロジェクトの各TAへの割り振り等を行いました。

■ TA1（放送用エンドユーザ機器）

テレビなどの放送用受信機に関して、受信機の測定方法などをスコープとしています。

今回は、TA会議としての開催はなく、一番ホットなプロジェクトである「テレビ消費電力測定方法」のプロジェクト会議のみを行いました。このプロジェクトは、米国内の規制の動きが発端でスタートとしたものです。

日本からは、省エネ法による静止画を使った測定方法を提案し、欧米から提案された動画による測定方法と両方を併記することで合意が得られました。今後、動画の有効性の検証を行って、2007年1月にプロジェクト内のワーキングドラフトを固める予定です。今回のプロジェクト会議は、日本（JEITA）がホストで12月に開催の予定となっています。

■ TA2（カラーマネジメント）

ディスプレイ（CRT、PDP、LCD）、プロジェクタ、プリンタ、スキャナ、デジタルカメラ等の色彩特性測定方法及び色空間の標準化に取り組んでいます。

日本がPLを務めるオプション色空間opRGBは、課題となっていた米国意見への対応をクリアし、次の投票

IEC/TC100 : Audio, video and multimedia systems and equipment

IEC/TC100 Website http://tc100.iec.ch/index_tc100.html

段階に進むこととなりました。IEC 61966-2-1 (デフォルト色空間sRGB) は、昨年米国から早期の改訂作業開始の提案がありましたが、既に広く普及していることに鑑み、改定の必要性がないことを確認し、有効期限を2012年まで延長することになりました。

■ TA4 (デジタルシステムインタフェース)

デジタルオーディオ、テレビ、ビデオなどのインタフェースに関する標準化に取り組んでいます。

IEC 61937-1 (圧縮デジタルオーディオインタフェース：一般、PL：日本) は、MPEG2 AACなどの新しいオーディオデータ形式に対応する作業を進めています。IEC 61937シリーズ規格のMTとJoint meetingを行い、このシリーズ規格との一貫性を保つための対応案が示され、了承されました。

MT 61883-8 (デジタルAVインタフェース：ITU-R BT.601 style Digital Video Data伝送、PL：英国) では、日本から車載機器対応コーデックの追加を提案し、承認されました。

■ TA5 (ケーブルシステム)

ケーブルシステム (CATV) のインタフェース条件、機器とシステムの性能及びその測定方法、安全、EMC等に関する規格化を行っています。

日本から提案しているFTTH (Fiber To The Home) のシステムと測定方法の説明を行い、米国、イタリア、英国のサポートを得て、新たなパート規格として設立することとなりました。

■ TA6 (放送業務用ストレージ)

放送業務用記録再生機器及びシステムに関して、放送用デジタルVTRフォーマットやエラーレート表示方法、各種測定方法の規格化に取り組んでいます。

メタデータ規格 (IEC 62261) は、ディクショナリのデータベース運用開始に向けて手続き等を確認したほか、今後の新テーマとなるMXFファイルフォーマットを日英で、タイムコード規格 (IEC 62261) の改定は日米で、協力して進めていくことが確認されました。

■ TA7 (民生用ストレージ)

民生用録画再生機器及びシステムに関して、デジタルVTRフォーマットや各種測定方法の規格化に取り組

んでいます。

DVテープにMPEG-2で圧縮されたHD信号を記録・再生するためのHDVフォーマット (PL：日本) は、ドラフトの修正内容を反映させて次の投票段階へ進めることとなりました。新たなテーマとして、JEITAの暫定規格である「CPX-2601メモリアーディオの音質表示」を説明し、TS (Technical Specification) として提案することで合意されました。

■ TAB (マルチメディアホームサーバシステム)

マルチメディアホームサーバのシステムやソフトウェアに関連した標準化を行っており、これまで、ホームサーバの概念モデルや放送コンテンツの蓄積フォーマットなどの規格化を行ってきました。

現在は、主にデジタルコンテンツの利用者の利便性を損なうことなく、権利者に適切な対価を保証するDRM (Digital Rights Management) に関連したプロジェクトを中心に推進しており、概念モデルや許諾コードの議論を行っています。DRMの概念モデルは、最終投票で可決されましたが、米国からITU-T SG9 (統合型広帯域ケーブルネットワーク及び映像・音声伝送) のJ. DRMとの関係整理が求められていました。概念的に矛盾がないことが説明され、IEC 62224 TSとして発行される運びとなりました。

許諾コードは、権利者がコンテンツを誰に、どこまで、どの範囲で許諾するかを体系化したコード体系であり、コンテンツ権利者側の意見も多く取り入れ、今回ようやくCommittee Draft for Commentを作成して



写真1. IEC/TC100ベルリン会議の様子

各国メンバに説明し、コメントを求める段階へ進むことになりました。

また、今回のAGSではコンテンツ権利者保護と利用者の利便性の両立を目指した1つの方式であるドメイン管理についても、概念を含め標準化に向けた議論を展開していくことになりました。

■TA9 (エンドユーザネットワーク用AVマルチメディアアプリケーション)

ネットワーク対応をスコープとして、2007年5月に発足した新しいTAです。現在は、DNLA (DNLA Home networked device interoperability guidelines) 関連、エコーネット関連のTCP/IPを使ったホームネットワークプロトコルなどのプロジェクトを推進しています。

中国から、中国におけるHome network標準の動向と提案の説明があり、ホームゲートウェイ関連の新規提案文書が提出されることが明らかになりました。この提案は、ISO/IEC JTC1 SC25/WG1で進行中のプロジェクトと重複すると思われる内容であるため、プロジェクト成立後にリエゾンを取りながら、整合性を確保することが必要と思われます。

■TA10 (電子出版及び電子書籍)

TA9と同じく2007年5月に発足した新しいTAです。概念モデルのTSが、既にIEC 62229 TSとして2006年7月に発行されています。

Generic Format規格は最終投票の段階にあり、日本からは、Annex BとしてXMDFを追加すべきとコメントしました。この提案に関して、XMDFの詳細の紹介と携帯電話向け電子書籍(マンガ)のデモンストレーションが行われました。規格発行後速やかにメンテナンス作業を開始し、Amendment発行を目指すこととなりました。今後は、Reader's formatやProofreading

markup languageの提案が期待されています。

■TC100直轄プロジェクト、GMTプロジェクト

既存のTAのスコープに当てはまらない分野のプロジェクトとして、AV機器が扱う個人データのセキュリティに関する設計ガイドライン、AV同期の測定方法・評価方法等を推進しています。

また、GMTのプロジェクトとして、音響変換機器関連のスピーカ規格やヘッドホン・イヤホン規格の改定を、日本がPLを引受けて進めています。

■総会

総会は、最終日に行われ、14カ国から約70名が出席しました。今後ますます重要なテーマとなっていくホームネットワーク関連について、幹事からTC100のポジションペーパーが説明され、問題なく確認されました。

新たなリエゾンとして、DLNA、ECHONET Consortium、RDS Forumとリエゾン関係を築くことがTC100として承認されたほか、ITU-T Focus Group on IPTVとも確立することが確認され、文書を送ることとなりました。また、関連国際標準化組織であるISO/IEC JTC1とは、AGM会議でのJTC1議長からの提案もあり、今後ともお互いに協力して円滑な標準化を推進するため、適宜、適切なレベルでのリエゾンを築く方向で具体案を検討していくこととなりました。

また、IEC設立100周年を記念して規格開発に貢献したエキスパートに贈られるIEC 1906 Awardの受賞者が紹介され、日本からは3名が受賞しました。

今回も数多くの議題がありましたが、国際役員のマネジメント及び各国参加者の協力によって、成功裏に終わりました。

次回の年次大会は、2007年10月にフランスで開催される予定となりました。

刊行物のご案内 「民生用電子機器データ集 (2006年版)」

購入はホームページから <http://www.jeita.or.jp/japanese/public/list/detail.asp?id=24&cateid=2>

■発行：2006年6月 (A6判247頁) ■頒価：会員 3,000円、会員外 5,000円 ■作成：JEITA/総合企画部 調査グループ

民生用電子機器(映像機器、音声機器、カーAVC機器)の国内出荷実績ならびに国内生産実績、海外生産実績、輸出・輸入実績を時系列的にまとめたデータ集です。本年度版は、分野別の出荷金額やデジタルオーディオプレーヤの出荷数量・金額などを新たに掲載し、内容の充実を図っています。